

人材育成事業

職種別スキル向上研修

今年度も総務担当者と営業担当者を対象とした、職種別のスキル向上研修を前橋市・群馬産業技術センターで開催しました。

7月19日

総務担当者研修

【講師】

HRMジェイズ
・オフィス代表
坂田二郎 氏



坂田氏は、総務の業務を列挙し、それぞれに「対会社」・「対社員」の性質があると説明した。特に「対社員」業務において、同一条件では同一の対処を、公平公正に行う重要性を強調した。そして、総務部門からの発言は、「会社が認めた発言」と受け取られるため、重みが伴うと注意を促した。

講習では、総務担当者の心得や業務の効率化について、グループで討議し、代表者による意見発表を行った。また、会社へ提言する際の論理の組み立て方やビジネス文書のまとめ方など、総務の幅広い業務内容について、個人ワークやケーススタディを取り入れながら解説し、スキルの習得を図った。参加者は、早々に打ち解けあい経験豊富な班員が、若手にアドバイスする様子もみられた。



受講者26名(22社)、平均年齢34.7歳

7月21日

営業担当者研修

【講師】

経営教育コンサルタント
雨宮利春 氏



雨宮氏は、激変の時代においても、営業という職業スタイルはA I やデジタル対応では代用できないと、その重要性を説明した。それを踏まえて、今後は責任感を持って顧客のために主体的に営業を行える「自律型営業担当」が求められていると解説した。

講習では、挨拶・マナー等の基本姿勢や顧客の潜在ニーズを把握するための手法、顧客の話の受け止め方、自社商品を提案する際の話し方などについて、グループワークやロールプレイング等を取り入れてスキルの習得を図った。

研修の最後には総まとめとして、研修で学んだスキルを使いながら2人1組の営業ロールプレイングを行った。



受講者34名(21社)、平均年齢28.2歳

採用力向上セミナーを開催

8月3日、前橋市・群馬産業技術センターにおいて、本会の合同企業説明会に参加する企業を対象に、「Z世代の心をつかむ企業の情報発信」と題し採用力向上セミナーを開催した。講師は、群馬大学キャリアサポート室長・結城恵氏。



結城氏は、平成8～26年に生まれた世代を「Z世代」と呼び、コロナ禍の生活様式の影響を色濃く受けて、特徴ある考え方や就職観を持つと説明(右表参照)。企業は従来どおりのPRの仕方では「働くイメージ」を上手く伝えられないため、伝え方の工夫が大事で、画一的に内容を伝えるのではなく、一緒に未来像を模索していく話し方を行うと効果的であると述べた。



結城 恵 氏

また、就活イベントでは、企業側の伝えたいこ



参加者の意見を聞き、課題を共有しながらセミナーを進行

とと学生側の知りたいことにずれを感じる。そのずれを無くしていくことで、学生に正しく自社をPRすることが出来ると力説した。それには、学生の生の声に耳を傾け、その声に応じて企業側の伝え方を変え続けていく必要があると考え方を示した。

■ Z世代の特徴や就職観

- 対面のコミュニケーションが苦手だが、オンラインのコミュニケーションは得意。
- オンライン上で仲間を見つけられるため、対面で無理に協調せず、多様性に富む。
- 就職活動において、情報量を重視。深掘りするよりも、広く浅く情報収集する。
- 個人の時間を非常に大切し、情報収集でも、タイムパフォーマンスを重視。
- 「楽しく働きたい」という意識が高い。
- 企業選択のポイントは「安定している」こと。
- 学生が行きたくない会社は「ノルマのきつそうな会社」。

●参加者から発言のあった課題・意見

- 自社の業界自体の認知度が低い。
- ミスマッチによる早期退職が発生している。
- 採用活動の早期化に対応して早めに動いても、結果的に内定辞退されることがある。
- Z世代は仕事の楽しさを会社から提供してもらおうという印象を受ける。仕事の楽しさは、自ら見つけるもので、辛さとワンセットであることを理解してほしい。
- 従来の価値観と異なり、戸惑いを感じる。 など